

# はあとメール 第20号

発行人 〒606-8405  
京都市左京区浄  
土寺上南田町26  
☎075-761-2109  
住田正則

みなさん、こんにちは！はあとメール代表の住田正則（行政書士・社会保険労務士）です。

私たち、はあとメールのスタッフは、現在は全員が行政書士・社会保険労務士といった法律の専門家です。ですので、本音のところでは、はあとメールの活動を通じて自分たちの業務につながるようなお話に出会えることを期待しつつ、「暮らしのお困りごと無料相談会」や小冊子「はあとメール」の発行に携わっていることは事実です。

私たちスタッフを利用する市民の皆さまの立場に立っても、相続や遺言、年金、離婚といった人生の重大事を、ただ単に連絡をとっただけの専門家に頼むのであれば、まだしも気心の知れた専門家に依頼する方が安心できるでしょうし、さまざまな面からのメリットも大きいだろうと考えています。



～文通で、あなたの暮らしにうおいと安心を～  
「市民のみなさんと法律家（専門家）の双方向の交流を、  
文通によって実現していきます」

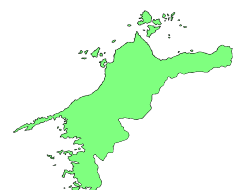
そのようなことを考え、私たちはこの活動を始めた、というのが偽らざる心境です。

しかし。やはり、そうした専門家と利用者（一般市民の皆さま）双方の利益のみをものさしにしたのでは、測り知れない何か、この活動にはひそんでいるのではないか、という思いが日増しに強まってきています。

なぜならば、人生の重大事において、法律の知識やスキルが活用できる範囲というものは、実はごく限られたものであるからです。法律の中で取り決めがあるから、遺産相続や離婚協議などで問題になっているところを解決できる、というのは幻想にすぎず、実際のところは、当事者が決めたことを、後追いの形を整えていくのが本来の法律の役目です。そうすると、法律の専門家たる私たちはそれぞれの案件において主導的な役割を果たすものではなく、せいぜい大枠のストーリーを解説する狂言回しか、あるいは各人各様のさまざまな人生模様のささやかな交通整理の役目を担う存在にとどまる、ということになります。



きざな表現になってしまいますが、このように限られた、ごく小さな役割を担うにすぎない私たち法律の専門家であるからこそ、業務の面以外でのつながりが重要になってくるのだと私は思います。それは自己満足か、もしくは苦しい言い訳なのかも知れませんが・・・



故郷の愛媛に立ち戻り、身内の相続問題に取り組むにつれ、前で述べたような思いが強まります。当然のことながら、相続人それぞれの事情や、これまでの経緯、そして各人の思惑などがよく分かる中での相続手続きであり、その上で各人の主張する内容が真っ向から食い違うという現状に直面しています。事実というものがこの世に一つしかないものだとすると、どちらかが、あるいはどちらともが、正しい認識を持っていないか、あるいは故意にねじまげた主張をしているということになります。

法的には、そうした誤りをただして、誰にとっても極力公平な結果がもたらされるように努力すべきところでありましょう。・・・しかし、それによってもたらされる結果というものは、果たして各当事者にとって幸せな、望ましいことばかりなのでしょうか？

私たち法律の専門家は、改めて申し上げるまでもなく、法律の運用・手続きの代理人たるべき者たちです。ただ、いわゆる「民事法務」と呼ばれるような、相続・成年後見・離婚などの案件にあたる際には、やはり単なる法の運用だけではなく、案件当事者の人生そのものにぶち当たる覚悟がどうしても必要ではないか、と思えてなりません。大げさでしょうか・・・専門家（プロ）としては、もっと客観的に割り切った対処の仕方をすべきでしょうか・・・？

そして、実は案件を依頼する市民の方々にとっても、そこまでの関わられ方は望まれていないことでしょうか・・・？



「はあとメール」の具体的な活動方法・活動内容について、改めてご説明いたします。

基本的に、毎月1回（15日前後）に、法律ひとくちメモやくらしのお役立ち情報などを盛り込んだ「はあとメール」を、本活動の趣旨にご賛同いただきました方々（「はあと会員」と呼びます）へ向けて郵送いたします。会員の方々は、スタッフへ向けてご質問・ご相談などのおたよりを送ることができ、それに対してのお返事をスタッフが書く、という流れで、双方の心のふれあい・意思疎通をはかります。

また、会員の方々は、スタッフが開催する無料相談会やセミナーに優先的にご参加いただくことができ、必要に応じて遺言・相続などの業務依頼をスタッフに発注することができます。すでに心安くしているスタッフへの依頼ですから、その安心感は格別なものになるのではないかと思います。

☆「はあと会員」会費 → 無料です！！

現在、はあとメールは、京都新聞社会福祉事業団さまの助成金を受けて「はあとメール」を発行しています。

このため、少なくともしばらくは会費をご負担いただくことなく、お申し込みいただくだけで、すぐに「はあとメール」をお送りいたします。

さあ皆さん、ぜひぜひ「はあと会員」の輪の中にお入りください～

☆会員へのサービス内容

「はあとメール」発送、質問・お便りへのお返事、相談会・セミナーへの優先ご招待、業務お引き受け（別途有料）・・・等

あなたのご参加を、心よりお待ちしております



（住田 正則）

## 住宅ローンのかしこい返し方



### 『繰り上げ返済』ここに注意！

#### ◆ 手持ち資金が減っても大丈夫？

これまで、2回にわたって有利な繰り上げ返済の方法についてご説明してきました。

同じ100万円の繰り上げ返済でも、時期やそのローンの金利、返済期間によって効果は違ってきます。節約効果は、繰り上げ返済の時期は早いほど、金利は高いものほど、返済期間は長いものほど大きくなります。

もし、複数のローンがあれば金利が高いものから、または、返済期間の長いものから繰り上げ返済を行えば効果を大きくすることができます。

ただし、繰り上げ返済をすると、その分預貯金が減ることになります。手持ち資金が減っても以後の生活に支障がないかどうかをよく検討してから行うことが大切です。

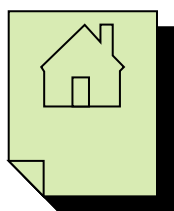
### 返済計画を変更する場合には手数料に注意！

#### ◆ 繰り上げ返済しすぎて家計が破たんしないように！

預貯金金利の低迷が続くなか、「お金を預けていても全然増えない！ならば繰り上げ返済をした方がずっと得！」と繰り上げ返済をどんどん行っている人もいらっしゃいます。

でも、ちょっと待ってください。預貯金は手元に残りますが、繰り上げ返済したお金は戻ってきません。つまり使えないお金になるということです。将来、どのような資金が必要になるのかまずは考えてみましょう。教育資金や住宅改修資金などまとまった資金が必要になることはないですか？また生活状況の変化に対応できる余裕資金は残していますか？手元資金が足りなくなって、他の高金利のローンやキャッシングに頼ることになっては家計が破たんします。

繰り上げ返済の効果は安定した生活があってこそ実感できるものです。ご自身の生活設計を踏まえ、無理のない範囲で行うことが重要です。



#### ポイント

安易に繰り上げ返済をしない！  
安定した家計管理には将来必要になる資金、余裕資金は確保することが重要です。

モーゲージプランナー・行政書士  
古川 真佐恵



みなさん、こんにちは。京の菜時記を書かせていただいております  
橋本将詞（社会保険労務士）です。

毎回、京都でとれる旬の野菜を紹介しようと始めた「京の菜時記」、  
今回で17回目、4月ですので春野菜をご紹介しますが、いわゆる「京野菜」ではありません。  
ただ、春にしか食べることができない「京の野菜」ですが、  
京都特有のものではなく全国的に作られているものをご紹介します。

## 京の菜時記

「春キャベツ」、サラダキャベツともいいますが、通常のキャベツよりも葉がチリチリで、柔らかく、レタスのようにサラダ感覚で食べることができます。しかし、この春キャベツ、生産者にとっては一苦労なキャベツなのです。柔らかいために非常に（病気に）弱く、少しの天候不順で収穫に支障をきたします。この記事を書いている4月中旬ではキャベツが1玉398円という報道もされています。もちろん、春とは思えないほどの異常気象・天候が影響しているものです。



京都とキャベツ・・・あまり結びつかないかもわかりませんが、実は全国的にも有名なのです。その昔、全国的にも5月と6月はキャベツの流通の端境期とされていました。冬のキャベツが終わり、信州の高原キャベツがでるには数ヶ月先になるためです。辛味の効いた一品に仕上がります。

5月・6月に出荷するためには冬～春に苗植えが必要です。京都（特に九条ねぎの）生産者においては、冬野菜収穫の後にキャベツ苗を定植することで、流通量が少ない時期に出荷できると見込ん

で、戦後まもなくからキャベツ栽培を開始されていました。別名、「甘藍（カンラン）」と呼んでいます。

今では、減反による作物の転換と交通網の発達によってこれまで作付けされていなかったところからの流通量が増え、端境期はほとんどなくなっています。と同時に、各生産者の耕作面積が比較的狭い京都でキャベツを作るメリットは少なくなったのは事実です。

とはいえ、京都のキャベツは評判がすこぶるいいのも事実。というのも、一人ひとりの農業技術が高いことにくわえ、（これはキャベツに限らずですが）1玉1玉丁寧な京都人らしい繊細な選別作業によるものです。

5月・6月に出荷されるものとは違い、いわゆる「春キャベツ」は一般的に「極早生」と呼ばれているもので、病が入りやすく作りにくいのために作付面積は少ないのですが、京都の「春キャベツ」早めに収穫し、外葉を多めにつけて出荷されるために、他県産よりも小さく軽いのですが、柔らかいのが特徴です。

どうぞご賞味ください。